

### 令和8年度 学力向上指導改善プラン

学校教育目標	自ら学び たくましく 心豊かな弥生っ子の育成
--------	------------------------

目指す子どもの姿	人に温かく思いやりのある子・よく考え、自ら学ぶ子・粘り強い気力、体力を持つ子
変容を目指す資質・能力	a 知識及び技能 b 思考力、判断力、表現力等 c 学びにむかう力、人間性等 d 情報活用能力 e 課題解決能力 f 学び続ける姿勢 g コミュニケーション能力

三 田 市 立 弥 生 小 学 校  
学 校 長 乙 訓 和 之  
研究主体【学校教育改革推進委員会】

前年度		継続性	4月(※全国学力・学習状況調査の結果などを受けて年度途中で変更する場合は削除、追記部分を赤字で修正)			2~3月	
学力向上に向けた重点的な目標	年度末評価 (前年度の成果と次年度に向けた課題等)		評価	学力向上に向けた重点的な目標 (変容を目指す資質・能力)	成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)	教員評価 (今年度の成果と来年度に向けた課題等)
話を聴くこと、言葉を大切にすることを礎とした主体的・対話的で深い学びのある授業実践(a,c,d,f,g)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「話を聴くこと」の大切さについては、集会の様子やクラスでの様子から、全般的に理解が深まってきているといえる</li> <li>◆学校評価アンケートで「人の話をよく聞き、自分の伝えたいことを伝えていきますか」の項目の肯定的評価が児童78%、保護者82%で目標値の85%には少し届かなかった</li> <li>◆「自分の伝えたいことを伝える」ことに課題を持つ児童が多く、丁寧な聞き取りをしていくことで「人に伝えることの大切さ」を自覚させながら、困った時などに「相談すること」への理解を深める必要がある</li> </ul>	B	話を聴くこと、言葉を大切にすることを礎とした主体的・対話的で深い学びのある授業実践(a,c,d,f,g)	学校評価アンケートで「人の話をよく聞き、自分の伝えたいことを伝えていきますか。」における肯定的評価が児童と保護者ともに85%	年度初めに生活指導に係る全校集会を実施し、児童と教職員が「話を聴くこと」の大切さについて共通理解を図る。学団朝会や普段の学級の中でも「聴くこと」について話をしていく。SC等による教育相談の良さについての説諭やストレスマネジメントを行い、困った時には相談をしていくことへの理解を深める。		
自尊感情を高めるための実践(c,e,f)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校評価に係る児童アンケート「学習や運動を、最後までがんばっていますか。」における肯定的評価は97%(昨年より2ポイント上昇)、「学校で楽しみな行事はありますか。」における肯定的評価が89%で目標を達成し、振り返りまでを一連の学習とする取り組みが定着してきている</li> <li>◆キャリアパスポートについては、大人のコメントの記入方法について、理解を深めていく必要がある</li> </ul>	A	自尊感情を高めるための実践(c,e,f)	学校評価に係る児童アンケート「学習や運動を、最後までがんばっていますか。」における肯定的評価が95%、「学校で楽しみな行事はありますか。」における肯定的評価が90%	授業や行事後の振り返りを行い、児童一人ひとりの努力や工夫した点を認めていく。キャリアパスポートを活用し、児童、家庭、学校で自分の長所について認知を深める。		
学びの構えを創る生活指導の充実(b,c,f)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校内においては、月に一度のにこにこデーを中心に共通理解を図り実践できているように見えるが、今後は学校で学んだことを日常でも活用できるよう働きかけしていきたい</li> <li>○弁護士からのいじめに係る講話、神戸北部少年サポートセンターの方からのSNS等を使ったいじめに係る講話を実施しいじめを許さない心の育成を図れた</li> <li>◆あいさつに関する肯定的な評価について、児童は96%、保護者は83%と結果に差が生じている</li> <li>◆2学期のいじめアンケートにおいて、「いじめはしてはいけない」と回答した児童は「ややそう思う」を含めて97.3%、3学期は98.2%であった</li> </ul>	B	学びの構えを創る生活指導の充実(b,c,f)	学校評価に係るアンケートで「おはよう、ありがとう」などのあいさつやお礼を言っていますか。」における肯定的な評価が児童、保護者とも90% 2学期のいじめアンケートで、「いじめはしてはいけない」を100%	全校集会等で、児童と教職員があいさつの大切さについて共通理解を図る。発達段階に応じて、弁護士、裁判官、警察等とも連携しながら、いじめは法的にも許されないということへの理解を深める。言葉遣いについて、全校集会、学級において指導・評価を一体化したサイクルを構築し、人を慮る言葉を増やす。		
ICT機器の適正な活用を通し、基礎学力の定着とともに主体的・対話的で深い学びのある授業実践(a,b,d,e)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○昨年度と同様、県警による情報講習会を実施し、児童の振り返りには、ネットの怖さをあらためて知ったことや言葉を大切にしたいという考えが述べられており、一定の成果は見られる</li> <li>○ひょうごGIGAワークブックについての研修を行い、情報モラル教育に活用した</li> <li>○年度末に、ひょうごGIGAワークブックを活用しての授業について実践交流を行い、そこでの共有事項を次年度以降に活かしていく</li> <li>◆学校評価に係るアンケートの「進んで宿題や調べ学習をしていますか」に対する肯定的な評価が児童で76%保護者で65%で目標よりも大きく下回っており、目標におけるICT活用と宿題や調べ学習のつながりを検討し直す必要がある</li> <li>◆いじめ事案において、SNS等に係るケースが0件にできていないため、情報モラル教育をさらに推進する必要がある</li> </ul>	B	ICT機器の適正な活用を通し、基礎学力の定着とともに主体的・対話的で深い学びのある授業実践(a,b,d,e)	学校評価に係るアンケートで「進んで宿題や調べ学習をしていますか。」における肯定的な評価が児童、保護者とも80% いじめの事案において、SNS等に係るケースを0件にする	情報モラルについて理解を深めていくため、専門機関とも連携し、ICT機器の適正な活用について理解を深める。生活科、総合的な学習等において、タブレットを活用し、情報収集や意見交換していく力をつけ、児童が自己評価できるよう支援する。		
校内研究において「集団と個を的確にみとり、よりよい探究に向けた教育環境の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○OSC、SSW、ひまわり特別支援学校自立支援部などと連携し、的確なアセスメントのもと、集団と個に応じた授業づくりを行うことができた</li> <li>○全職員が指導案作成に関する研修を受け、問題解決的な学習を行えるよう単元構想や授業実践に取り組み、学級担任が一回ずつ公開授業を行い、外部講師同席のもと事後研修会を実施した</li> <li>◆職員アンケートから、指導案の書き方については全職員で統一された一方で、問題解決的な学習となるための具体的な教師の手立てや工夫については「分からない」と答えた割合が半数近くとなったので、集団と個の実態に応じた授業実践を行えるよう、今後も研修を行っていく</li> </ul>	B	校内研究において「子どもが自ら学びをつくる授業」の推進	教員対象に実施する自己点検調査結果の項目で「問題解決型の授業構成を中心とした探究の過程を大切にしたい授業改善」における肯定的な評価が75%	教職員同士で授業を見合う週を一年間で3週間程度設定する。各学級において、生活科、総合的な学習等の指導案を作成し、一人1授業、校内での公開を行う。		
めざす児童像を共有した学校園所連携の推進(c,f)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前年度に引き続き、今年度も中学校区の交流会を3回行い、分科会に分かれて交流することで、担当分野ごとの課題を深く掘り下げたり、校種間での指導のずれや違いを改善し、ルールや方針を統一したりできた</li> <li>◆連携する必要性は共有できているが、学力向上につながる具体的な取り組みや成果が十分に見える形になっていないので、今後は目指す子ども象を共有し、具体的な取り組みと振り返りを積み重ねていきたい</li> </ul>	B	めざす児童像を共有した学校園所連携の推進(c,f)	教員対象に実施した自己点検調査結果の項目で「基礎学力やVUCAな時代を生きていくために必要な学力向上に向けた小・中連携の推進」における肯定的な評価が75% 児童生徒交流会における児童の肯定的評価が80%	校園所交流会等において、幼小中連携を進めていく。ケースカンファレンス等を小中で実施し、情報共有の場を構築していく。		

○「教員評価」は教員対象に実施した自己点検調査結果(1~5の5段階評価)の平均値  
○「評価」は年間の取組みについて、4段階で評価  
A・・・十分に達成 B・・・おおそ達成  
C・・・達成が不十分 D・・・ほとんど達成できず